

**令和2年度
伊勢市わがまち写真コンクール
入賞作品集**

令和2年度「伊勢市わがまち写真コンクール」入賞作品

【最優秀賞】

学校名	学年	氏名	作品名	場所
伊勢高校	1年	中川真夕菜	灯籠流し	勢田川

【優秀賞】

学校名	学年	氏名	作品名	場所
宇治山田商業高校	2年	畑野陸	神域までの距離	伊勢市豊川町茜社
—	—	東出幸子	昭和初期から立ち続けて	外宮駐車場
—	—	山口匡剛	木漏れ日の参道	伊勢市朝熊町地内 (朝熊岳道)

【入選】

学校名	学年	氏名	作品名	場所
—	—	青嶋秀雄	旧宮川橋の遺構	宮川河川敷 宮川の渡し付近
—	—	板谷一行	古い倉庫のある風景	河崎の勢田川沿い
宇治山田商業高校	3年	梅谷弥来	山門	太江寺
—	—	大田明弘	コロナ禍・盛夏・養命の滝	養命の滝 (伊勢市前山町)
宇治山田商業高校	3年	鈴木さくら	春へつづく鳥居	宮川堤
—	—	土屋裕規	夜の旅館の趣	麻吉旅館
宇治山田商業高校	2年	堂東直矢	日帰り高天原	伊勢市二見町 御塩殿
五十鈴中学校	3年	中島鈴行	一個一個点灯された提灯	猿田彦神社
宇治山田商業高校	1年	濱口太一	五十鈴ヶ丘駅にて	五十鈴ヶ丘駅 (JR参宮線 伊勢市黒瀬町)
—	—	八木祐輔	非日常	おはらい町通り (内宮前)

令和2年度「伊勢市わがまち写真コンクール」入賞作品集

(総評)

2020年を語るうえで、新型コロナウイルス感染症によって生活様式が大きく変わったことは外せません。「Stay Home」など、自粛を求められる期間も多くありました。

おそらくその影響もあるのでしょう、今年の写真コンクールの応募数は、昨年比で3割程度少なく、残念に思いました。しかしながら、これまで被写体として応募されることのなかった風景や施設があったり、比較的好く見る光景でも、その写し方に工夫があったりと、応募された方が情熱を持って取り組まれていたことを感じました。力作や秀作がたくさんあり、悩ましくも楽しく選考させていただきました。

この写真コンクールの特徴ですが、その募集要綱にテーマが設定されていて、「わたしが思う伊勢市の素敵な景観」とあります。例として「まちなみ、自然風景、歴史的建築物、来訪者におすすめしたい場所など」が挙げられています。こういった市内の好きな場所の写真を撮ってもらうことで、景観に親しみをもち、大切に気づき、新たに発見してもらうことを目的としています。

審査員の立場では、こうして応募いただいた作品を審査する基準が決められています。ひとつは「テーマに対応した作品であること」、もうひとつは「表現に工夫がされていること」の2点です。

スマートフォンやカメラ機能付き携帯電話からの応募も可能になっていますので、フィルムカメラ全盛期のように「きれいな景色を見かけたけど撮れなかった」ということは減ったように思います。当たり前のように写真が撮れる時代になった今日、重要なのは写真を撮ろうと思う心、きっかけとなる「きれいな景色だ」「見慣れているけど実はすごい」といった気づきです。

多くの方が、例えば「夕日がきれい」「川の流れてきれい」と感じるがあると思います。そのとき、その「夕日がきれい」「川の流れてきれい」なのは、その人がいる場所や時間も重要で、その現実を認識しつつ、その「夕日」や「川の流れて」をどうやって写真に表現しようか、という工夫があって「作品」になるように思います。

今回入賞した作品から、この作者はどういったところを「素敵な景観」だと思い、「大切に気づき」、さらには「表現に工夫」したのか、考えていただきたいとともに、ご自分の中で普段から「きれいと感じる心」「すごいと感じる心」を育てていただければ嬉しく思います。

向原 知宏

【最優秀賞】



灯籠流し

中川 真夕菜

(撮影場所)

勢田川

(撮影理由・想い)

家族で灯籠流しを見て、とてもきれいで幻想的だと思ったから。

(選評)

中川さんのコメントに「家族で灯籠流しを見て、とてもきれいで幻想的だと思ったから。」とあります。「家族で灯籠流しを見て」とのことで、ご家族の皆さまが、普段から市内の景観に親しみをもたれる素地のある方だと感じました。また、「とてもきれいで幻想的だと思った」とのコメントから、その目の前の光景を「きれい」と感じる豊かな心、「幻想的」と感じる繊細な心を持った方とわかります。

夕闇がせまる時刻の、まだ残照のある空や、高架道路の照明、その照明の水面への映り込み、浮かぶ小舟など、これでもかという情景を背景に、灯籠が、激しく動くでもなく、止まっているでもなく、流れていく。さらには、画面右端にうっすらと人物を写すことで、その光景に深みを持たせる工夫までなされています。

私の勝手な思いですが、この光景をご家族で見られて、そのあとで灯籠流しとはどういう行事なのかをお話しされたのではないのでしょうか。写真コンクールのテーマ、目的が見事に表現された作品だと感じました。

向原 知宏

【優秀賞】

	神域までの距離
	畑野 陸
	(撮影場所) 伊勢市豊川町茜社
	(撮影理由・想い) 千本とまではいかないもののたくさんのとりいが私の胸をうちました。

(選評)

畑野さんのコメントに「千本とまではいかないもののたくさんのとりいが私の胸をうちました。」とあります。ご存じのとおり、京都・伏見稲荷大社の千本鳥居は有名で、観光ポスターなどでよく見かけます。

茜社は外宮のとなりに鎮座し、多くの参拝客が訪れる外宮と比較すればひっそりとした趣があります。まずこの茜社に着目したところに、コンクールのテーマが表現されているように思います。そして「千本とまではいかない」鳥居ながら、鳥居の全体像を写さず切り取ることでダイナミックに、奥行きのある表現がなされていると感じました。被写体との距離やアングル、フレーミングを変えて撮るのは、写真表現の基本的な工夫ですが、これが見事になされています。タイトルもいいです。

向原 知宏

【優秀賞】



昭和初期から
立ち続けて

東出 幸子

(撮影場所)
外宮駐車場

(撮影理由・想い)
昭和初期には珍しいコ
ンクリート製。水色も美
しい。

(選評)

東出さんは本作以外も応募されていて、その着眼点はいずれも素晴らしく、どれを選ぶか悩ましくも楽しく選考した方のお一人です。

被写体は、外宮駐車場の近くの道路際に立っているコンクリート製の電柱です。コメントに「昭和初期には珍しいコンクリート製。水色も美しい。」とあります。桜の季節に、水色が映えるよう撮影されています。また、仮に横位置（写真が横長）で撮ると、周りが写り込み過ぎて主題があやふやになるところ、縦位置でしっかりと撮られているなど、画面作りにも工夫を感じました。タイトルも本作をよく表していると思います。

単なる一本の電柱かも知れませんが、その歴史やその時代の技術など、いろいろなことを教えてくれると思います。これを機会にさらに「大切に気づき、新たに発見して」いただけたらと思います。

向原 知宏

【優秀賞】

	木漏れ日の参道
	山口 匡剛
	(撮影場所) 伊勢市朝熊町地内 (朝熊岳道)
	(撮影理由・想い) 時折、陽が差し込む新緑のトンネルが神秘的な雰囲気醸し出しています。また、傍らにある古びた道標が「岳参り」の歴史を感じられます。

(選評)


朝熊山は、歩いて登ると結構しんどいですが、その達成感が心地よい山だと思っています。この作品を見て、以前登ったときの、その達成感までも思い出すことができました。


新緑のころ、天気の良い日に登ると、「時折、日が差し込む新緑のトンネルが神秘的な雰囲気を醸し出して」いることを感じます。作品の左上の木漏れ日がこれを表現しています。また、右下に薄暗く写された道標は、「岳参り」の歴史を確かに表現しています。

自然風景は季節によっても、天候や時刻によっても表情を変える被写体です。おそらく山口さんは日ごろからこの参道を歩いておられ、この参道が一番きれいな時季を紹介してくださったと同時に、暑くも寒くもない一番登りやすい時季も紹介くださった気がします。それはつまり、「来訪者におすすめしたい場所」であり、写真コンクールのテーマ、目的が表現されていると思います。

向原 知宏

【入選】

	<h2>旧宮川橋の遺構</h2>
	青嶋 秀雄
	(撮影場所) 宮川河川敷 宮川の渡し付近
	(撮影理由・想い) 宮川の渡し付近に、旧宮川橋の遺構が現れました。大正～昭和に架かっていた木橋の橋脚跡のようです。太い木を使っており、現役時代はさぞかし立派な橋だったことでしょう。明治期の先輩である鉄道橋と新橋に見守られ、夕陽を浴びて輝いていました。

	<h2>古い倉庫のある風景</h2>
	板谷 一行
	(撮影場所) 河崎の勢田川沿い
	(撮影理由・想い) 河崎の川沿いにある昔の倉庫が歴史の変遷を感じて。

	<h2>山門</h2>
	梅谷 弥来
	(撮影場所) 太江寺
	(撮影理由・想い) 地元の歴史的建造物を撮りたいと思い撮りました。



コロナ禍・盛夏・養命の滝

大田 明弘

(撮影場所)

養命の滝 (伊勢市前山町)

(撮影理由・想い)

コロナ禍、命の大切さを改めて実感する昨今。そんな今の世の願いを反映しているような名の「養命の滝」。思わず滝に向かって合掌しました。



春へつづく鳥居

鈴木 さくら

(撮影場所)

宮川堤

(撮影理由・想い)

鳥居をくぐれば一瞬で春が来たように感じられ青空と桜のコントラストがキレイでした。



夜の旅館の趣

土屋 裕規

(撮影場所)

麻吉旅館

(撮影理由・想い)

古市の道を少し外れるとある麻吉旅館。住宅街の中にあるとは思えない建物であり、提灯の光がきれいなため撮影。



日帰り高天原

堂東 直矢

(撮影場所)

伊勢市二見町 御塩殿

(撮影理由・想い)

境内に差し込む光が神秘的だったので撮影してみました。



一個一個点灯された提灯

中島 鈴行

(撮影場所)

猿田彦神社

(撮影理由・想い)

たくさんの提灯が照らされ光に包まれて美しい。



五十鈴ヶ丘駅にて

濱口 太一

(撮影場所)

五十鈴ヶ丘駅
(JR 参宮線 三重県伊勢市黒瀬町)

(撮影理由・想い)

学校への通学に使われている駅の風景が、
のどかでとてもいい景観に見えたので撮影し
ました。



非日常

八木 祐輔

(撮影場所)

おはらい町通り (内宮前)

(撮影理由・想い)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自粛期間中に撮った
一枚。GWなのにおはらい町通りに誰もいないという目の前
の様子が信じられませんでした。また多くの人が安心して伊
勢のまちを訪れることができる時が来ることを願って。